

地域在住高齢女性における 継ぎ足歩行テストの 年齢階層別標準値の作成

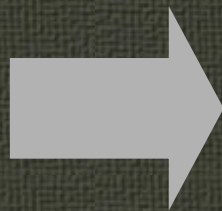
下井俊典^{1) 2)}, 鈴木理恵子³⁾, 矢野弥生³⁾,
小林ひろみ³⁾, 小林さと子³⁾

- 1) 国際医療福祉大学保健学部理学療法学科
- 2) にしなすの総合在宅ケアセンター
- 3) 大田原市高齢いきがい課介護予防係

背景と目的

継ぎ足歩行 (tandem gait)

- バランスの評価
- 介入手技
- 統一された評価手順、基準となる標準値がない



地域在住高齢女性における
継ぎ足歩行テストの
年齢階層別標準値を作成

方法

- 対象者

- 栃木県〇市に居住する高齢女性112名
(73.9±6.5歳)

- 介護保険制度の介護予防一般高齢者施策に参加
- 歩行補助具無しで歩行可能

- 継ぎ足歩行テスト

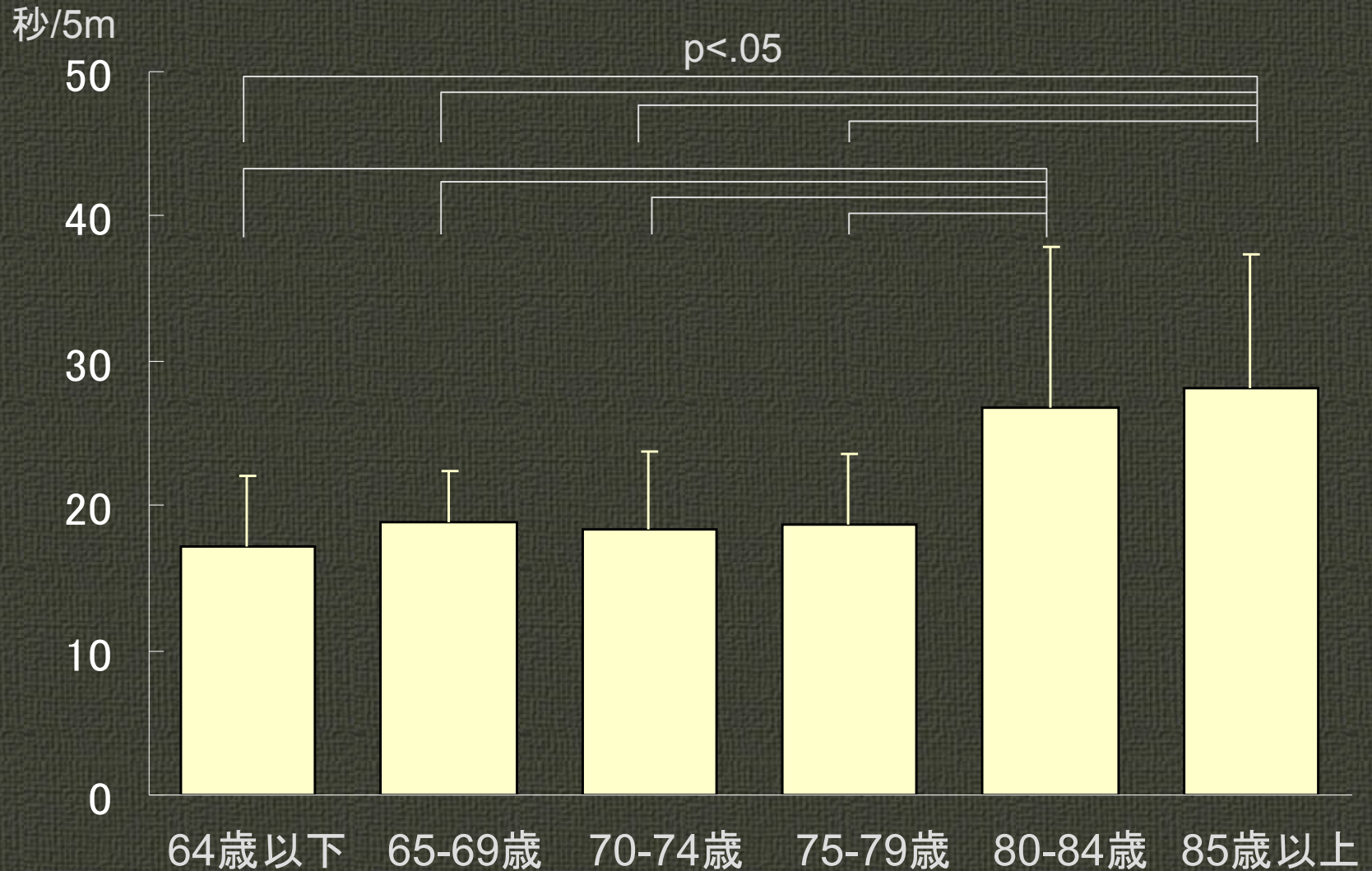
- 長さ5m, 幅5cmのテープ上を継ぎ足歩行
- 要した時間を継ぎ足歩行テスト値とした
- 靴下履き, あるいは裸足
- 上肢肢位は自由

- 年齢階級別の検討
 - 得られた継ぎ足歩行テスト値を, 5歳毎の6年齢階級に分けて検討
 - 一元配置分散分析, Post-hoc (Turkey-Kramer法)
- 年齢階層分け
 - 有意差のない年齢階級を年齢階層分け
 - 各階層の測定値の分布度について正規性の検討
- 5点法による年齢階層別標準値の作成

限界点	
平均値 +1.5SD	「優れている」
平均値 +0.5SD	「やや優れている」
平均値 -0.5SD	「ふつう」
平均値 -1.5SD	「やや劣っている」
	「劣っている」

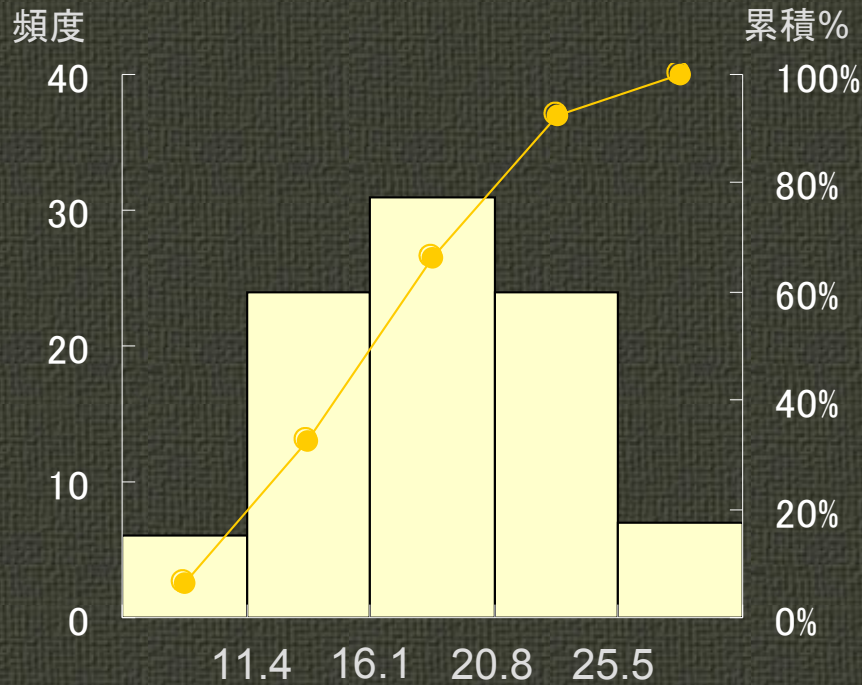
結果

- 各年齢階級別の継ぎ足歩行テスト値

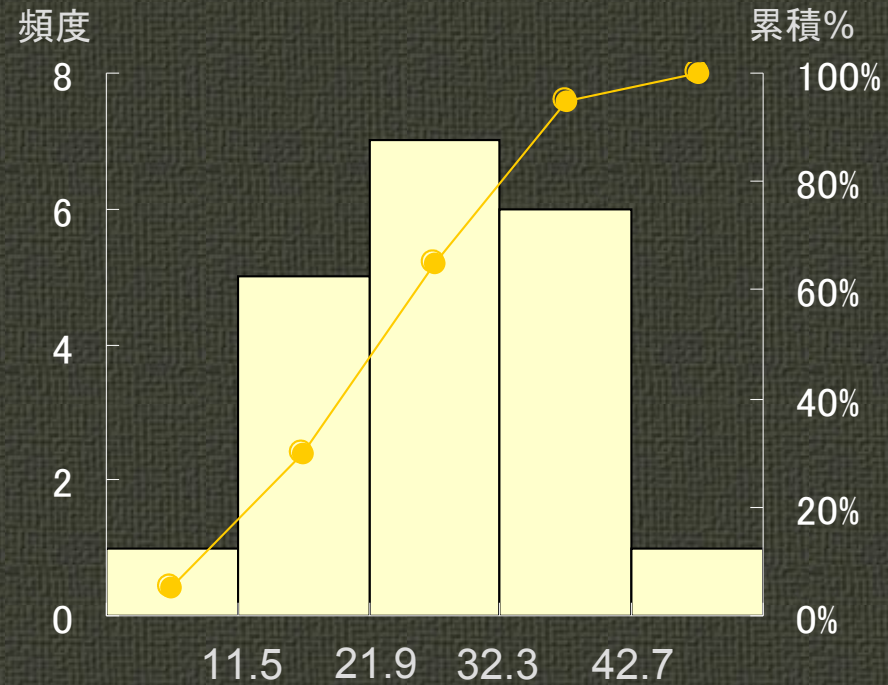


- 正規性の検討

79歳以下



80歳以上



- 年齢階層別標準値

	優れている	やや優れている	ふつう	やや劣っている	劣っている
79歳以下	<11.4	11.4~16.1	16.1~20.8	20.8~25.5	≥25.5
80歳以上	<11.5	11.5~21.9	21.9~32.3	32.3~42.7	≥42.7

考察

- 継ぎ足歩行テスト値は, 80歳を境界値として加齢変化する
- 80歳以上, 79歳以下の2年齢階層について, 測定値の標準値を作成
- 今後の課題
 - 標準値の精度の向上
 - 男性
 - 他の年齢階級 ex) 若年者
 - 要介護度の影響
 - 評価方法としての有効性の確認